

エネルギー・環境工学輪講I
Energy and Environment Science 1

演習 3単位 1学期

【担当教員】

各教官 (Staff)

【授業内容及び授業方法】

エネルギー・環境工学に関する研究課題を中心として輪講を行う。

エネルギー・環境工学輪講II
Energy and Environment Science 2

演習 3単位 2学期

【担当教員】

各教官 (Staff)

【授業内容及び授業方法】

エネルギー・環境工学に関する研究課題を中心として輪講を行う。

【担当教員】

青木 和夫 (AOKI Kazuo) ・ 門脇 敏 (KADOWAKI Satoshi) ・ 鈴木 正太郎 (SUZUKI Masataro)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟602(青木), 機械建設1号棟502(門脇), 機械建設1号棟616(鈴木)

【授業内容及び授業方法】

熱エネルギーの有効利用の観点から, 熱エネルギーの輸送および貯蔵システムとその最適化, 並びに燃焼現象における熱エネルギー計算と燃焼器の高効率化について講述する.

【担当教員】

白樫 正高 (SHIRAKASHI Masataka) ・ 増田 渉 (MASUDA Wataru) ・ 金子 寛 (KANEKO Satoru) ・ 高橋 勉 (TAKAHASHI Tsutomu)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟603室(白樫), 機械建設1号棟501室(増田),
機械建設1号棟605室(金子), 機械建設1号棟601室(高橋勉)

【授業目的及び達成目標】

エネルギーの有効利用の観点から、流動による熱・エネルギーの輸送および貯蔵システムとその最適化、乱流現象の統一的な取り扱いとトライボロジーにおける流体エネルギーの有効利用などについて講述する。

【担当教員】

入澤 寿逸 (IRISAWA Juichi) ・原田 信弘 (HARADA Nobuhiro)

【教員室または連絡先】

電気1号棟406室(入澤), 電気1号棟403室(原田)

【授業目的及び達成目標】

半導体電力変換装置と電磁機器とを組合わせたエネルギー変換システムの最適化に必要な解析技術、具体的なシステム構成とその特長、理論解析手法について講述する。

【授業キーワード】

電力変換、電力系統、新エネルギー

【担当教員】

近藤 正示 (KONDO Seiji)・大石 潔 (OHISHI Kiyoshi)・野口 敏彦 (NOGUCHI Toshihiko)

【教員室または連絡先】

電気1号棟307室(近藤), 電気1号棟509室(大石), 電気1号棟402室(野口)

【授業目的及び達成目標】

各種エネルギーの形態の多様化に伴い、それらエネルギーと電気エネルギーを相互変換して高性能システムを構成するためにはシステム・制御的な観点からの取扱いを必要とする。

本講では、瞬時空間ベクトルの理論に基づくシステム解析と最適システムの構成、及び、電機エネルギー変換の後のモーションコントロールを含めた制御戦略について説明すると共に、最新のエネルギー変換・制御の動向についても論述する。

【授業キーワード】

制御工学, 電力変換器, インバータ, コンバータ, ベクトル制御, 電動機制御, モーションコントロール, メカトロニクス

【授業内容及び授業方法】

各担当教官が、基礎的な知識と技術を土台として、先端的なエネルギー変換・制御の内容を講述する。各指導教官が指定したテキストと、配布するプリントによって、講義を行う。レポートを数回提出させる。

【授業項目】

1. 瞬時空間ベクトル理論
2. 各種電力変換器制御の最新理論
3. 高品位な電力を得るための最新制御理論
4. 交流機のベクトル制御の最新理論
5. モーションコントロールの最新理論
6. メカトロニクス機器の先端的制御理論

【教科書】

なし

【参考書】

適宜, 担当教官が指定する。

【成績の評価方法と評価項目】

数回のレポートで成績を評価する。

【留意事項】

予備知識として、電気電子システム工学専攻の「パワーエレクトロニクス特論I, II」と「電機システム制御工学特論」を受講済であることが、望ましい。

【担当教員】

八井 浄 (YATSUI Kiyoshi) ・ 伊藤 義郎 (ITO Yoshiro) ・ 江 偉華 (JIANG Weihua)

【教員室または連絡先】

極限エネルギー密度工学研究センター 極限棟202室(八井), 機械建設1号棟307室(伊藤)
極限エネルギー密度工学研究センター 1号棟201室(江)

【授業目的及び達成目標】

原子核反応によって発生する核エネルギーについて、物理学、化学、生物学的視野から、詳しく講述する。

【授業内容及び授業方法】

原子核の結合エネルギーを理解し、原子エネルギー発生、制御、反応、安全性、原子炉、放射線取り扱い、計測、廃棄物処理、問題点、将来性等について、詳しく述べる。

【授業項目】

- § 1. はじめに
- § 2. 原子核と核反応
- § 3. 核分裂の現状と将来への展望
- § 4. 核融合の現状と将来への展望
- § 5. 原子炉工学
- § 6. 放射線の計測とその応用
- § 7. まとめ

エネルギー変換化学特論
Advanced Chemistry for Energy Conversion

講義 2単位 2学期

【担当教員】

野坂 芳雄 (NOSAKA Yoshio) ・ 小林 高臣 (KOBAYASHI Takaomi)

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟425室(野坂), 化学経営情報1号棟526室(小林)

【授業目的及び達成目標】

化学エネルギーの光エネルギーへの変換および光エネルギーを半導体や色素を用いて化学エネルギーへ変換する方式を化学の立場より論じ、ケミカルレーザー、ガスダイナミックレーザー等についても講述する。

【担当教員】

山田 明文 (YAMADA Akifumi) ・梅田 実 (UMEDA Minoru)

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟524室(山田), 化学経営情報1号棟523室(梅田)

【授業目的及び達成目標】

電気化学的手法による電気エネルギーと化学エネルギーの変換を中心に、電極反応、酸化還元触媒、新素材合成等について講述する。

【担当教員】

濱崎 勝義 (HAMASAKI Katsuyoshi) ・末松 久幸 (SUEMATSU Hisayuki)

【教員室または連絡先】

電気1号棟301室(濱崎, TEL:47-9501,9557), 極限エネルギー密度工学研究センター1号棟203室(末松)

【授業目的及び達成目標】

超伝導現象の基礎的理論、超伝導材料の電子デバイスへの応用、高温超伝導材料の物性について学習する。

Theory and electronic-device-application of superconductivity and properties in high- T_c superconductors is studied in the class.

【授業キーワード】

超伝導、電子デバイス、高温超伝導
superconductivity, electronic devices, high- T_c superconductors

【授業項目】

1. ロンドン侵入長、ロンドン方程式、ギンズブルグ-ランダウ理論
2. クーパー対、BCS理論
3. トンネル効果とジョセフソン効果
4. 超伝導の電子デバイスへの応用
5. 高温超伝導体の構造と物性

1. London penetration depth, London equation, Ginzburg-Landau theory
2. Cooper pair, BCS theory
3. Tunnel effect, Josephson effect
4. Application of superconductors to electronic devices
5. Structure and properties of high- T_c superconductors

【担当教員】

松下 和正 (MATUSITA Kazumasa)・小松 高行 (KOMATSU Takayuki)・石黒 孝 (ISHIGURO Takashi)・藤原 巧 (FUJIWARA Takumi)

【教員室または連絡先】

環境システム棟464室(松下), 化学経営情報1号棟423室(小松), 電気1号棟303室(石黒), 化学経営情報1号棟421室(藤原)

【授業項目】

担当教官 松下 和正

アモルファス材料の基礎および応用に関して、次のことを検討しあう。

- 1 ニューガラスの定義と特性
- 2 ニューガラスの種類と製造法
- 3 ニューガラスの性質と応用

担当教官 小松 高行

アモルファス材料の基礎および応用に関して、次の順序に従って講述する。

- 1 アモルファス状態の定義と特性
- 2 アモルファス材料の種類と製造法
- 3 アモルファス材料の性質と応用

担当教官 石黒 孝

アモルファス状態を次の関点から講述する。

- 1 分布関数と構造因子
- 2 構造とゆらぎ
- 3 構造因子の長波長極限としての熱力学
- 4 電気物性と構造因子

【担当教員】

松本 昌二 (MATSUMOTO Shoji) ・ 中出 文平 (NAKADE Bumpei) ・ 佐野 可寸志 (SANO Kazushi)

【教員室または連絡先】

環境システム棟365室(松本), 環境システム棟353室(中出), 環境システム棟366室(佐野)

【授業目的及び達成目標】

国土の総合土地利用上の諸問題を明らかにし、利用相互の関連、環境条件の把握、利用上の原単位を論じ、土地利用計画と交通計画の作成のための手法を解説する。

【担当教員】

早川 典生 (HAYAKAWA Norio) ・ 福島 祐介 (FUKUSHIMA Yusuke) ・ 細山田 得三 (HOSOYAMADA Tokuzo) ・ 陸 旻皎 (LU Minjiao)

【教員室または連絡先】

環境システム棟652室(早川), 機械建設1号棟804室(福島), 機械建設1号棟807室(細山田)
環境システム棟653室(陸)

【授業目的及び達成目標】

地球上の水圏環境の実態、その力学的挙動と予測手法を論ずる。個別的には以下の課題を取り扱う。

- 1) 地球上の水の存在の実態、
- 2) 地球上の水の動き概観、
- 3) 地球上の水の分布の測定、
- 4) 地球流体力学の定式化、
- 5) 大気循環と海洋大循環、
- 6) 閉鎖性水域の力学、
- 7) 重力流の力学、
- 8) 自然水域の拡散現象。

【担当教員】

藤田 昌一 (FUJITA Shoichi) ・ 原田 秀樹 (HARADA Hideki) ・ 三宅 仁 (MIYAKE Hitoshi) ・ 大橋 晶良 (OHASHI Akiyoshi) ・ 小松 俊哉 (KOMATSU Toshiya) ・ 塩野谷 明 (SHIONOYA Akira)

【教員室または連絡先】

環境システム棟555室(藤田), 環境システム棟570室(原田), 体育保健センター107室(三宅)
環境システム棟569室(大橋), 環境システム棟554室(小松), 体育保健センター108室(塩野谷)

【授業目的及び達成目標】

自然環境、人間環境、音響環境等の種々の環境問題を総合的にシステムの思考をする手法の開発を試み、環境保全のための最適設計に関し、事例研究を主として講述する。
環境問題は、単に自然環境のみならず人間環境(社会システム)をも包括するとの観点から、これを把握するのに適しているといわれるシステムダイナミクスを用いた地域モデルについて、その開発の経緯、方法論、それを用いた事例などについて講述する。

【授業キーワード】

自然環境、人間環境、システムの思考、システムダイナミクス

【授業内容及び授業方法】

各担当教官による

【授業項目】

1. 環境論概論
 2. 自然環境論
 3. 人間環境論
 4. システムダイナミクス
 5. 事例検討
- 各3回程度

【教科書】

別途指示する

【参考書】

別途指示する

【成績の評価方法と評価項目】

評価方法: レポートによる
評価項目: 理解度、応用度

【担当教員】

海野 隆哉 (KAINO Takaya) ・ 大塚 悟 (OHTSUKA Satoru)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟708室(海野), 機械建設1号棟801室(大塚)

【授業目的及び達成目標】

地球規模の地殻の変動が引き起こす、地震、地すべり等の地盤災害などを対象として、そのメカニズムを理解し予測するための物理的基礎と、現象把握ならびに観測手法を講述する。

【担当教員】

杉本 光隆 (SUGIMOTO Mitsutaka) ・ 豊田 浩史 (TOYOTA Hirofumi)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟808室(杉本), 機械建設1号棟705室(豊田)

【授業目的及び達成目標】

土構造物や地中構造物を取り扱うための力学的背景を、基礎的な地盤挙動に基づいて解説する。さらに地盤災害およびその対処法についても学び、今後の国土造成、開発のあり方について、地盤工学的見地から講述する。

【担当教員】

東 信彦 (AZUMA Nobuhiko)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟406室

【授業目的及び達成目標】

地球環境変動に関する情報計測の最新技術について紹介し、今後の動向と可能性について考察する。

【授業キーワード】

地球環境変動、情報計測、氷床コア解析

【授業内容及び授業方法】

個別に講義・ゼミを行う。

【授業項目】

1) 氷床変動論 2) 環境情報解析 3) 環境変動情報計測法 4) その他

【教科書】

なし

【参考書】

個別に指定する

【成績の評価方法と評価項目】

個別に課題を出し評価する

【担当教員】

向井 幸男 (MUKAI Yukio) ・ 力丸 厚 (RIKIMARU Atsushi)

【教員室または連絡先】

環境システム棟654室(向井), 環境システム棟655室(力丸)

【授業目的及び達成目標】

広大な地球環境の計測には衛星は重要な手段であり、主と衛星により観測したデータを使って地球環境のいろいろな物理量を計測する技術とその最新の動向について解説する。